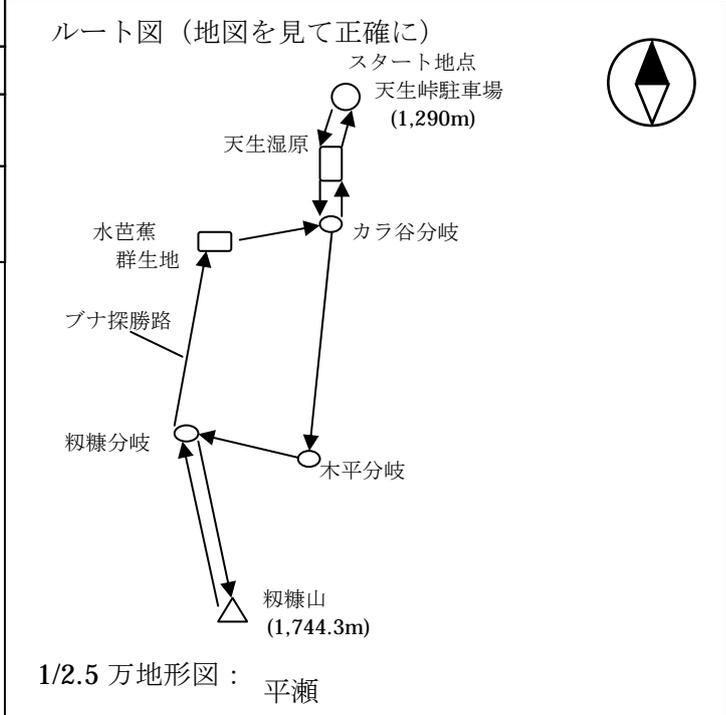


6 月度 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">例会</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">個人</span> 山行報告書		報告者	岩崎芳彦	参加 メンバー	岩崎芳彦と友人3名
		報告日	H24.6.09		
山城		山行日	2012年6月5日(火)		
山名	靱糠山				

山行目的	残雪と花を見る	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	---------	--------------------

配布先  
総会参加数  
山行: 1  
リーダー  
原紙:  
会事務局



6月5日(火)曇時々晴*
自宅発 4:30
岡崎 IC 5:00
白川郷 IC 7:30
天生峠駐車場 8:00-20
天生湿原入口 8:45
カラ谷分岐 9:00
木平分岐 10:05
靱糠分岐 10:28-43
靱糠山山頂 11:10-38
靱糠分岐 12:00-05
水芭蕉群生地 12:30-13:00
カラ谷分岐 13:20
天生峠駐車場 14:00-30
荘川 IC 16:45
岡崎 IC 19:00
自宅着 19:30

〈山行報告〉梅雨入り前の晴れ間をねらって、残雪と花の見える山「靱糠山」登山を計画した。メンバーはいちシルバークレジットの仲間のM氏他2名の計4名。M氏の車1台で東名、東海環状、東海北陸自動車道を使って白川郷ICまで行き、ここから国道360号で天生峠まで行く。広い駐車場があり、10数台の先客があった。登山支度をして、登山口で「自然保護協力金」ということで500円/人を払ってスタートする。新緑の中を鶯の声を聞きながらゆるい坂道を進むと、30分足らずで天生湿原の入口に着く。湿原は周回でき、往きは西側から行く。広い湿原には水芭蕉やリュウキンカなどが咲き始めていて、全員がカメラを出し写真を撮る。カラ谷分岐を過ぎたあたりでは、珍しい花がいっぱい。サンカヨウ、エンレイソウ、キクザキイチゲなどを覚える。所々に残雪があり渡ってくる風が冷たく気持ちよい。靱糠分岐でらしい休憩をとり、朝が昼かわからない食事

をずる。ここから山頂までは雪解けで泥んこ道が多くなる。これをおかしながら急な登りを登り切ると頂上。山頂は狭く、「混雑する時は譲り合いを」の立て札があった。展望はよく御嶽、乗鞍、槍などを見る。下りは靱糠分岐からブナ探勝路を経て水芭蕉群生地へ出る。広い湿原に水芭蕉が一面に咲き、まさに極楽浄土の感あり。またブナの巨木やカツラの巨木なども見え、いっぱい写真を撮った。カラ谷分岐への道では珍しく

緑色したニリンソウにも出会えた。帰りの天生湿原は東側を通り駐車場  
に戻る  
写真を撮りながらの山行で、時間的には相当余分に掛かったが、味わい  
深い山行が出来たと思っている。帰り道は平瀬で温泉「しらみずの湯」  
に入り、荘川ICから帰宅。無事「残雪と花の山行」を終えた。



確認  
(リーダー)  
岩  
H24/6/09  
崎

作成  
(報告者)  
岩  
H24/6/09  
崎

〈リーダー所見〉  
この靱糠山もかなり人気があり、休日ともなると駐車場が一杯で止めるの  
に苦労すると聞いている。それ故に自然も荒らされ易いが、保護管理して  
くれる人がいてありがたい。登山者もマナーを守りこの美しい山をいつま  
でも残すように努めねばならないと感じた。